

議会報告会2024 報告書（各地域）

[委員会名]： 建設常任委員会 [委員長]：山口議員

日 時	令和6年8月7日（水）	19時00分 ～ 20時30分
会 場	阿品市民センター	
担当委員	山口議員、山下議員、佐々木（由）議員、新田議員、大崎議員、栗栖議	
記 録 者	栗栖議員	
参 加 者	12名	
ご意見等		会場での回答
JR 宮島口駅北側を横断するバイパス道路が作れないか。		物理的に難しいと考える。ご理解いただきたい。
実証実験の割引分は誰が負担したのか。		当初は市が負担する予定だったが、交通量増による増収などもあり、NEXCO からの請求はなかった。
府中高速1号は対面交通で赤字だったが、広島への早道との案内で利用者も増加し4車線化が実現した。 廿日市でも広島岩国道路利用促進のため、通過交通車両へ「早道」アピールをしてはどうか。		廿日市 IC から大野 IC 間は7kmしかないため、ご提案を参考にして提案してみたい。
広島岩国道路の無料化は20年前からあるが進んでいない。南道路整備と併せて無料化に向け努力してほしい。		・南道路と廿日市 IC をつなぐ計画なども進められており、市長、議長とともに要望活動もしている。 ・議会も議長だけが要望活動をするのではなく、議会一丸となって国や県に訴えていけるよう、建設常任委員会がリーダーシップをとりたい。
沿岸部の幹線道路は、大地震時の津波で容易に浸水し通行不能となる。高所へのバイパス（廿日市・大野間）を整備することはできないのか。		国道2号線の大野鳴川護岸の越波対策は進められている。 バイパス整備の考えについてはご意見としてお伺いしておく。
廿日市・大野間だけではなく、廿日市・大竹間の割引はできないのか。実証実験だからこそ、やろうと思えばできるのではないか。		議会でもこの話はしている。市域を跨ぐ問題でもあり、高速道路の位置づけも「山陽自動車道」「広島岩国道路」が混在し、大竹市は晴海バイパス整備が優先していることなどからも難しい。 ・廿日市市と大竹市は、競艇事業や教育関係でも結びつきは深い。議会間で課題を共有するなど、交流を深めることも必要と感じた。
廿日市消防署は津波で浸水するのでは。高台への移転建て替えを。		消防署は整備から日も浅く、費用面や用地確保からも難しい。一般質問などでもBCPについては取り上げられており、自家発電機能や臨時基地局についても議論されている。車両は移動することも可能であり、西分署など高台にある消防署もあ

	る。
岩国基地への米軍駐留を認めて、大竹市のように交付金をもらうべきではないか。	基地増強への反対は、これまでも歴代市長が続けており、議会も含めて是非についての回答はできない。 ご意見としてお伺いしておく。
阿品台の下水処理場跡地の土地利用はどうなるのか。	・民間所有となったため、行政から用途を制限することは難しい。 ・地域住民の健康増進のために使うと聞いている。再度コロナなどの PCR 検査場が必要となった際、ドライブスルーで検査ができるような施設も整備したいとのこと。 ・所有者である医院側に対し、地域住民へ都度の情報提供を求める。
新幹線駅を誘致するという話が以前はあったと思うがどうなったか。	現実的に難しい話だと思う。その話はもう終わったと思う。
宮島航路の JR 線に対する早朝・深夜便への補助額が増えているが、来島者が増えている中でトータルでは黒字と考えられるので減額しても良いのでは。	・公共性が強い JR をお願いしているが、補助金を入れても不採算な時間帯路線である。松大汽船の従業員も利用するなど、必要性は高いため減額は難しいと考える。 ・確かに来島者は増加の一途を辿っており、収益は増えていると思う。対象の路線は赤字かもしれないが、収支について確認しているわけではない。1 便当たりの運行経費や損益分岐点の利用者数、年間を通じての収支なども確認できるのであればしてみたい。
その他のご意見	
市の負担が無くなったことや、効果があったことは評価できる（意見）	